

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	まちなか誘客促進事業	会計	一般会計	事業No.	479	施策順No.	13-009
		事業種別	政策・重点	予算科目	7-1-4-16-1		
政策	1 多様な産業が発展できる経済力の強いまちづくり			課等名	観光課		
施策	13 地域内産業の多様な連携			事業期間	開始	17	終了

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	飯田の中心市街地(まちなか)を訪れる人						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
		飯田の中心市街地を訪れる人、又は訪れたいと考えている人(万人)	10	10	10	11	11	
	意図	滞留、宿泊させる						
対象をどう変えるか	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	目標達成度
	宿泊による滞留客数(万人)	4.3	4.5	6	4.7	6.4	6.5	A
22年度の目標達成度に対する振り返り(政策的事業のみ評価)	<ul style="list-style-type: none"> ・全国獅子舞フェスティバル等まちなかを舞台としたイベントを行ってきたことで、まちなかでの宿泊客数を増加させることができた。 ・新たに飯田駅観光案内所を開設したことで、まちなかの賑わいの拠点としてまちなか観光を充実させることができた。 							

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	<p>まち歩き観光ニーズの分析と新たな販路開拓。商・観連携によるリーピーター客の獲得。飯田駅観光案内所に「観光ガイドを常駐」させる仕組みを作り、日常的なまち歩き観光を推進する。川本人形美術館と連携した新たな観光コースや、企画商品を開発する。観光ガイドの中から、まちなかスペシャリストとして語り部を育成し、歩く観光を進めるとともに、一店逸品事業と連携したロコミ観光を推進する。まちなかへの宿泊誘客を推進するために、観光公社の他、立寄り施設などと連携してセールスを行う。宿泊誘導・地域食材を使った食の情報発信など、消費に結びつく情報発信力を強化する。</p>		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	<p>1 まち歩きメニューの開発 (1)散歩マップ、桜守の旅ほか作成 (2)まち歩きモデルコースの整備と普及</p> <p>2 観光プロモーション活動</p> <p>3 語り部(観光ガイド)の育成と活用 (1)観光ガイドの会の運営及び研修 (2)まちなかイベントとの連携</p> <p>4 飯田駅観光案内所長(観光ガイドコーディネーター)の配置【新】 (1)観光案内所の運営 (2)まち歩きガイドツアーの実践 (3)観光協会事業との事業連携(企画活動の実践) (4)各種情報の発信、観光ニーズの把握・分析</p>	<p>1 (1)パンフレット作成部数 (2)モデルコース整備・普及回数</p> <p>2 セールス活動回数</p> <p>3 (1)ガイド例会及び研修回数 (2)まちなかイベントとの連携回数</p> <p>4 観光案内所長 (1)運営する案内所 (2)ガイドツアー実施回数 (3)観光協会との連携事業数 (4)管理運営しているWebサイト数</p>	<p>1 (1)20,000部 (2)5コース 2 9回 3 (1)24回 (2)4回 4 1人 (1)1か所 (2)35回 (3)2 (4)1</p>
23年度実施計画	<p>1 まち歩きメニューの開発 (1)散歩マップ・桜守の旅ほかツール作成 (2)まち歩きモデルコースの整備と普及</p> <p>2 観光プロモーション活動</p> <p>3 語り部(観光ガイド)の育成と活用 (1)観光ガイドの会の運営及び研修 (2)まち歩きガイドツアーの実践</p> <p>4 観光協会事業との事業連携</p> <p>5 飯田駅観光案内所からの情報発信</p>	<p>1 (1)マップ・パンフレット作成部数 (2)モデルコースの整備・普及回数</p> <p>2 セールス活動回数</p> <p>3 (1)ガイド例会及び研修回数 (2)ガイドツアー実践回数</p> <p>4 観光協会との連携事業数</p> <p>5 管理運営しているWebサイト数</p>	<p>1 (1)30,000部 (2)5コース 2 10回 3 (1)24回 (2)35回 4 2プロジェクト 5 1</p>

3 事業コスト

事業費	特定財源	国庫支出金	22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	特定財源内訳、補足事項 (県)重点分野雇用創造事業補助金 2,340千円
	起債	県支出金	2,340	2,300	2,340	
		一般財源	852	837	768	
		計(A)	3,192	3,137	3,108	
	人件費計(B)			0		
トータルコスト A+B			3,137			

4 事業に対する市民や議会の意見

観光拠点の一つである「まちなか」を整備・発信することでまちなか賑わいの創出が求められている。
--

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	地域内産業が、多様な連携により新たな経済活動を創出する。	施策の成果指標又はムトス指標	まち中観光の推進により創出した、あらたな宿泊による観光消費額(億円)
この事務事業は施策の目的達成にどのよう貢献しましたか	4年間の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・まちなか観光の拠点として飯田駅観光案内所をオープンしたことで、まちなかの賑わい創出に貢献できた。 ・飯田観光ガイドの育成により、まち歩きコースの整備・普及が図られてきた。 		
	後期に向けた課題	<ul style="list-style-type: none"> ・魅力あるまち歩き観光コースの整備と資源の磨き上げが必要である。特に、若者や女性をターゲットにしたまちなか観光に仕上げる必要がある。 ・まちなかだけでは集客力に欠けるので、天龍峡・遠山郷とも連携した取り組みが求められる。 		
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・まちなかの名桜ライトアップ事業を充実することで宿泊客の確保に努めた。 ・まち歩きの語り部(観光ガイド)の育成と活用を図った。 		
	後期に向けた課題	<ul style="list-style-type: none"> ・まちなか観光だけでは宿泊客の確保は難しいことから、天龍峡・遠山郷とタイアップした着地型商品の開発が課題である。 		
コストを削減するためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急雇用創出事業補助金(H22～)を活用したまちなか観光の推進を図ってきた。 		
	後期に向けた課題	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急雇用創出事業補助金(H23まで)終了後の予算が確保されなければまちなか観光が衰退する。 		
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・中心市街地の賑わい回復のためにも、市が積極的に関わり活動することができた。 		
	後期に向けた課題	<ul style="list-style-type: none"> ・特になし 		
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を発揮するために、行政はどのような働きかけをしてきましたか、又は、配慮してましたか	4年間の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ①飯田観光ガイドが飯田駅観光案内所に常駐することにより積極的なまちなか案内を行っていただいた。また、飯田駅観光案内所の交流サロンからの充実した情報発信がなされた。宿泊施設では宿泊客獲得のための営業努力が行われてきた。 ②まちなか誘客のためのイベントを積極的に開催した。また、情報発信に力を入れてきた。 		
	後期に向けた課題	<ul style="list-style-type: none"> ①若い世代の観光ガイドの育成が課題である。また、地域の資源を地域住民が磨き上げるための意識の向上が必要である。 ②まちなかには多くの観光資源があることを働きかけ、それを誇りに持つ人材の育成が求められる。それら資源を結びつけさらに魅力あるまち歩きコースの整備と情報発信を充実させること。 		
全体を通じて	4年間の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・中心市街地でのイベント開催などまちなか観光の充実に取り組んできたことで、まちなかを訪れる観光客は増加してきている。 ・飯田観光ガイドが育成されてきたことで、まちなか観光に付加価値を高められるようになってきた。 		
	後期に向けた課題	<ul style="list-style-type: none"> ・まちなか観光だけでは集客力に欠けるので、天龍峡・遠山郷とタイアップした宿泊を伴う着地型商品の開発がポイントである。 		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要があるかどうか	ない	対象や意図を修正する必要があるかどうか	ない	成果指標や指標値を修正する必要があるかどうか	ない
-----------------------	----	---------------------	----	------------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	--	--------------------------------	--